

上島町に東予地区の女性消防団員集う！

上島町消防だより



実技講習の様子



職員によるAED取扱いの説明



鈴木医師による歯科救急の講話

東予支部女性消防

強化対策研修会開催

11月6日、上島町消防庁舎において、平成19年度東予支部女性消防強化対策研修会が開催されました。

この研修会は毎年、東予地区5市町の女性消防団員を対象に開催されており、地域に根ざした女性消防団員の育成を目的に行われています。

今年の上島町に総勢49名の女性消防団員が集結しました。最初に町内で開業されている歯科医の鈴木伸二朗医師から、歯科救急についての講話がありました。

続いて、消防職員の指導による、心肺蘇生法（胸骨圧迫・心臓マッサージと人工呼吸）と、AED（自動体外式除細動器）の取扱い講習を行いました。

今回、参加された女性消防団員の中には、普通救命講習修了者、応急手当普及員認定者も含まれており、実技訓練では、傷病者に対し手際のよい処置が行われていました。

戸締まり用心 ♪ 火の用心 ♪



魚島地区



岩城地区



生名地区

幼年消防クラブ

防火パレード実施

11月6日～9日にかけて、全国秋の火災予防運動の一環として町内各地区の保育所園児による、防火パレードが実施されました。秋の晴れ渡った空に、「火の用心」の元気な子どもたちの声が響き渡りました。



平成19年出動件数

	火災	救急
今年(10月)	1	40
昨年(10月)	0	32
昨 年 比	+1	+8
19 年 累 計	3	382

平成19年10月31日現在



弓削地区



農業講座

しまなみ農業だより シイタケの原木栽培について

しいたけは家庭で比較的簡単にできるキノコです。春にクヌギなどに菌を植え付けて栽培しますが、12月頃から原木の準備が必要です。今回はシイタケの原木栽培について解説します。

(1) 原木の伐採と植菌までの管理

シイタケの原木への植菌は早春（3月）に行いますが、原木は12月から準備を始めます。キノコにとって重要な栄養源となる原木は、立ち木で最も養分を含む紅葉半ばから落葉直前に伐採を行います。シイタケの原木に適する種類はドングリの成るクヌギやカシ類です。伐採した木は切り株に木口を乗せて地面との接触を避けて1ヶ月程度、枝干しを行います（図1）。1m程度に玉切りにした原木は地面に接触しないように枕木を置いて高さ1m以内にマキ積みになります。直射日光を当てないように覆いなどをしてゆっくり乾燥させます（写真1）。

ポイント：①原木はある程度乾燥させ半枯れ状態が良い。
②害菌を付けないように土の上に直接置かない。
③皮を傷つけない。

図1 原木の乾燥

枝葉を付けたままで、木口が地面に触れないように切り株の上に乘せて乾かす。

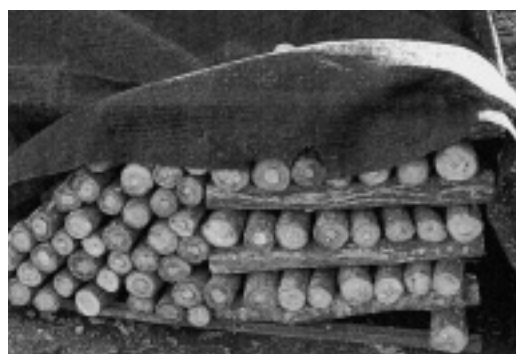


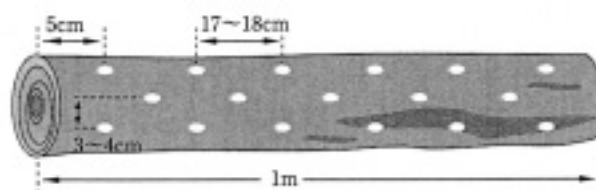
写真1 細菌までの原木管理

地面への接触を避け、直射日光に当たらないようにする。

(2) 植菌時の注意事項

種駒（シイタケ菌）はJ Aなどで購入し準備する。植菌は、雑菌の繁殖の少ないサクラの開花までに行う。種駒による植菌個数は、原木の切口直径の4倍を目安にする。シイタケ菌糸は縦方向に伸びやすいので列数が多くなるように植菌する（図参照）。

6個、5個の千鳥植えとし、1列に多く植菌するよりも、列数が多くなるように植菌する。植菌個数は、原木木口直径（単位：cm）の4倍を目安とする。



（6個、5個の千鳥植菌）

(3) 植菌後の管理

植菌後は雑菌よりも早くシイタケ菌を広がらせることに重点を置く。植菌後の原木は地面に触れないように、1m以内の高さにマキ積みをして、ダンボールなど厚手の紙類を湿らせ、カンレイシャ、その上にブルーシートなどで覆いをして梅雨明けまで保温と湿度を保つ。25度以上になる時期からはビニールシートからヨシズなどに代えて日除けを行い、乾燥するようなら散水を行う。

梅雨明け後は、本伏せのため原木を日陰に合掌伏せに組みなおし、9月頃まで1週間に2回の散水を行い散水と乾燥を繰り返し菌の蔓延を促す。1年目の本伏せは散水ができる近場が良く、2年目以降は林地などへ移動する。秋の気温が20～15度の頃から週に2回の散水を2週間続けると春の発生が多くなります。